

日本から発見されたチャイロツクビコメツキダマシ

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (elater2003elater@yahoo.co.jp)

Discovery of *Henecocerus angusticollis* Bonvouloir (Coleoptera, Eucnemidae) from Japan

Wataru SUZUKI

Abstract. *Henecocerus angusticollis* Bonvouloir, 1871 is a rare eucnemid beetle known from Indochinese peninsula, Malaysia and Indonesia. However, this species has never been recorded from Japan. In the present paper, *H. angusticollis* is newly recorded from Japan.

コメツキダマシ科の甲虫は、通常の採集方法では採集しづらい仲間とされてきたが、最近では、ライト付き FIT による調査が威力を発揮し、従来では考えられないほどの個体数が得られるようになった。現在のところ、日本から知られているコメツキダマシは 81 種余りであるが (畑山, 2018; Lee *et al.*, 2018; 今坂ら, 2019), これまでほとんど手が付けられていない琉球地域を加えると、その数値は倍以上にはなるのではないかと推測される。現在は、得られる資料に対して研究が追いついていない。大型種においてもその正体がわからないものも多く、早急にその全貌を明らかにすることが求められている。

最近、宮崎県で甲虫類の生息調査を精力的におこなっている笹岡康則氏より、灯火採集で採集されたコメツキダマシをお送りいただいたが、その中に、日本からこれまで記録のなかったチャイロツクビコメツキダマシ *Henecocerus angusticollis* Bonvouloir, 1871 と思われる個体が含まれていたの、ここに記録し、その形態を明らかにしたい。

本報告をするにあたり、興味深いコメツキダマシを採集され、ご恵与くださった宮崎市の笹岡康則氏、ラオス産の個体を同定してくださったウイスコンシン州の Robert L. Otto 博士に厚くお礼申し上げます。なお、本報告に用いた標本はすべて筆者が保管している。

Henecocerus Bonvouloir, 1871

Henecocerus Bonvouloir, 1871: 72; Bonvouloir, 1875: 634–635; Germminger et Harold, 1869 [?]: 1477 (catalogue); Fleutiaux, 1902: 660 (key); Fleutiaux, 1921: 226 (key), 282; Fleutiaux, 1923: 324 (key); Fleutiaux, 1924: 28; Fleutiaux, 1928: 77 (catalogue); Fleutiaux, 1947: 49 (key), 51;

Otto, 2016: 285–286 (diagnosis). Type species: *H. angusticollis* Bonvouloir, 1871.

Henecocrus [sic] Muona, 1993: 51.

Macraulacinae 亜科の Echthrogasterini 族に所属する (Muona, 1993).

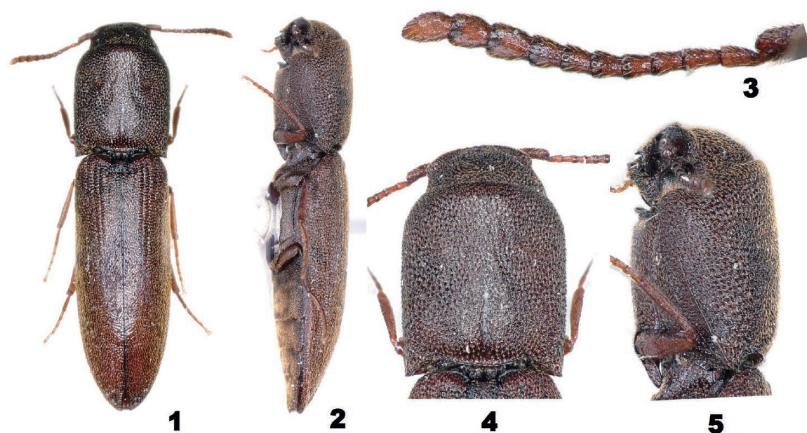
体は円筒形で細長く、背面の短毛は寝る。大顎は一歯状で、細長く、基部には歯突起がない。複眼は小型。触角は短く、前胸背板の中央にやっと届く程度。第 4 節は 2・3 節を合わせた長さより短い。頭部と頭循の間の触角溝はかなり深く、上下に幅広く開くため、触角は第 1 節においても上下に自由に可動。触角溝の幅は広く、複眼の直径より明らかに広い (Fig. 5)。頭循前縁は波状で、中央部では丸く、外縁部では下方に伸び、その先端は尖る。前胸上側板には触角溝が存在しない。背腹縫合線は基半部では隆起し、明瞭であるが、前方では消失する。側腹縫合線は一重。前胸腹板は、前縁手前で深い横溝を形成する。前胸背板後角は短く、先端は上反して尖る。胸腹板突起は単純で、前基節窩の後方で上方に曲がり先端は切断される。前脚附節は細長く、爪は単純。雄においても附節性櫛を欠く。腹部末端節は、雌では普通に丸まるが、雄では強く突出し尖る。

備考。本属は現在のところ、次の 1 種のみが知られる。

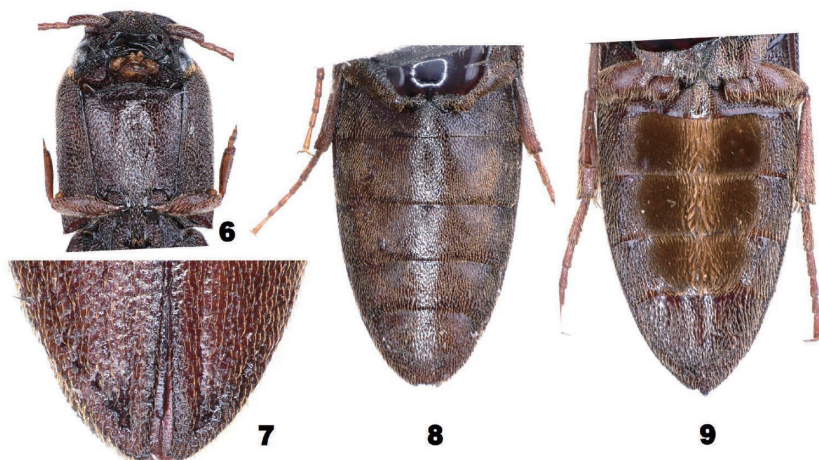
Henecocerus angusticollis Bonvouloir, 1871 (Figs. 1–9)

チャイロツクビコメツキダマシ (和名新称)

Henecocerus angusticollis Bonvouloir, 1871: 72; Bonvouloir, 1875: 635–636, pl. 31, fig. 1 (description: Malacca, Singapour, Cambodge); Germminger et Harold, 1869 [?]: 1477 (catalogue); Fleutiaux, 1896: 593 (Sumatra: Siboga);



Figs. 1–5. *Henecocerus angusticollis* Bonvouloir, 1871 collected from Kyushu, Japan. 1, dorsal habitus; 2, lateral habitus; 3, left antenna; 4, prothorax, dorsal view; 5, ditto, lateral view.



Figs. 6–8. *Henecocerus angusticollis* Bonvouloir, ♀ (Japan). 9, ditto, ♂ (Borneo). 6, prothorax, ventral view; 7, apical portion of elytra, showing the presence of irregular shaped holes; 8, abdominal sternites; 9, ditto, showing the presence of velvety hair.

Fleutiaux, 1921: 282 (list); Schenkling, 1928: 77 (catalogue); Fleutiaux, 1947: 49 (key), 52 (redescription: Tonkin); Otto, 2016: 286–287, fig. 107 (redescription: Laos).

Henecocerus angusticollis variety : Bonvouloir, 1880: 56 (Koetoer).

Henecocerus abdominalis Fleutiaux, 1922: 115–116 (description: Laos: Haut-Mekong, Tong-King; Sala-Quang-Pa); Fleutiaux, 1923: 336 (Est peut-être la femelle de *H. angusticollis*); Fleutiaux, 1924: 28 (ditto); Schenkling, 1928: 77 (as a junior synonym of *H. angusticollis*).

♀ (宮崎産). 体長: 6.0 mm; 幅: 1.7 mm. 暗褐色～赤褐色. 触角と脚はやや明るい. 頭部前縁はやや広く縁取られ, 顕著に隆起する (Fig. 4). 触角は短く, 前胸背板の中段に届く程度. 前胸背板は樽形で, 縦長 (1.1 : 1.0). 前方では丸く盛り上がるが, 後方ではやや平圧される. 基部 3/5 の両側には一対の浅い凹みがあり, 基部中央には浅い縦溝を備える (Fig. 4). 表面は臍状の点刻で被われ, 網目状に近く, 光沢は鈍い. 点刻は, 中心線付近を除き, 各点刻後縁に顆粒を伴う. 上翅は基部の 2.66 倍. 上翅基部は網目状に点刻される. 翅端手前には深い陥没孔が存在する (Fig. 7). 翅端は会合部先端に

棘状の突起を備える。後基節板は基部 1/2 では幅広くなるが、後縁は角張らない (Fig. 8)。

♂ (九州産の雄は未検なのでボルネオ産の個体に基づく)。体長: 8.0 mm; 幅: 1.9 mm。前脚跗節は、下面の両側にそれぞれ 1 本の棘状突起を備える。前胸背板中央部の点刻は密。腹部は第 2 ~ 4 節の側縁部を除き金色の長毛を密生し、ビロード状となる。5 節は平圧され、表面の毛は疎らで、光沢を放つ。5 節先端部は細くなり、後方に突出する (Fig. 9)。

日本産とラオス産雌個体の比較

本種は、マラッカ、シンガポールそしてカンボジア産の個体に基づいて命名記載されたものである。残念ながら、筆者はこれらの地域の個体を見ることができなかったが、手元にあるラオス産の雌と比較を試みたところ両者の間には以下の表のように示した形質に違いが認められた。

表 1. 日本産とラオス産のチャイロツツクビコメツキダマシ雌の比較。

比較形質	日本産 (宮崎県)	ラオス産
頭部前縁	やや広く縁取られ、顕著に隆起する	やや狭く縁取られ、隆起するが、中央部では不明瞭となる
触角	第 4 節が最小で、第 2 節は細長く、3 節とほぼ同長	第 2 節が最小で、第 3 節は第 2 節の 1.5 倍以上
背腹縫合線	基半部では隆起し、明瞭であるが、前方 1/4 では不明瞭となる	基半部では隆起し、明瞭であるが、前方では不明瞭ながら存在する

これらの形質の違いは、個体変異、地域変異、種差のいずれを示しているのかは、調査できた個体数がきわめて少ないため判断することはできなかった。ここでは、同種として扱い、調査できた個体の間には、このような形態差が認められたことを明記しておきたい。

検視標本. 1 ♀, Ayaminami-gawa (綾南川), Aya-chô, Miyazaki Pref., Japan, 15. IX. 2018, Yasunori Sasaoka leg.

比較標本. 1 ♂, near Keningau, Sabah, northern Borneo (E. Malaysia), 9. V. 1994, local collector; 1 ♀, Xieng Khouang, northeastern Laos, VII. 1986, local collector (*Henecosoma* [1] *angusticollis* Bonvouloir Det. R. L. Otto, 2013).

分布. スマトラ, マレー半島, シンガポール, ボルネオ, ベトナム, ラオス, 日本 (九州)。

備考. 本種は、西表島やベトナムから知られているアカヒゲホソコメツキダマシ *Nematodes*

confusus Fleutiaux, 1947 に一見似るが、雌では腹部末端が丸くなり、突起を持たないこと、雄では腹部 2 ~ 4 節にビロード状に毛が密生することにより識別できる。

引用文献

- Bonvouloir, H. A. de, 1871–1875. Monographie de la Famille des Eucnemides. Annales de la Société de l'Entomologie de France, 40 (Supplement) : 1–907, 42 pls.
- Bonvouloir, H. A. de, 1880. On a new species and a new variety of the family Eucnemidae collected during the recent Scientific Sumatra-Expedition. Notes from the Leyden Museum, 2: 54–56.
- Fleutiaux, E., 1896. Eucnemides Austro-Malais du Musée Civique de Gênes. Annali del Museo Civico di Storia Naturale di Genova, 36: 555–606.
- Fleutiaux, E., 1902. Essai d'une classification des Melasinae (Eucneminae des auteurs). Annales de la Société Entomologique de France, 70: 637–664.
- Fleutiaux, 1921. Etudes sur les Melasidae (Coleoptera serricornia), Huitieme Partie. Annales de la Société Entomologique des Belgique, 41: 283–309.
- Fleutiaux, 1922. Melasidae [Col.] nouveaux d'Indo-Chine. Bulletin de la Société Entomologique de France, 1922: 113–116.
- Fleutiaux, E., 1923. Catalogue raisonné des Melasidae de l'Indochine française (Insectes: Coléoptères). Bulletin de la Société zoologique de France, 48: 319–336.
- Fleutiaux, E., 1924. Faune entomologique de l'Indochine française I. Coléoptères Serricornes Fam. Melasidae. Opuscules de l'Institut Scientifique de l'Indochine, (2) : 7–30.
- Fleutiaux, E., 1947. Révision des Eucnemides (Coléoptères) de l'Indochine Française. Notes d'Entomologie Chinoise, 11: 1–68.
- Gemminger, M. & E. F. von Harold, 1869 [?]. Catalogus coleopterorum hucusque descriptorum synonymicus et systematicus, 5 (Buprestidae, Trixagidae, Monommidae, Eucnemidae, Elateridae, Cebionidae): 1347–1608. Monachii.
- 畑山武一郎, 2018. 日本産コメツキダマシ科概説 1. 日本産コメツキダマシ科全リストおよびチャイロコメツキダマシ族までの検索表. KORASANA, (88): 221–228, pls. 1–2.
- 今坂正一・齋藤正治・築島基樹・江頭修志・有馬浩一, 2019. 2018 年に採集した釈迦岳の甲虫類. KORASANA, (92): 183–226.
- Muona, J., 1993. Review of the phylogeny, classification and biology of the family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica Scandinavica, supplement, 44: 1–133.
- Otto, R. L., 2016. The false click beetles (Coleoptera: Eucnemidae) of Laos. Entomologica Basiliensia et Collectionis Frey, 35: 181–427.
- Schenkling, E., 1928. Melasidae. In: Schenkling, S. (ed.), Coleopterorum Catalogus, 96. 90 pp. W. Junk, Berlin.

(2020年3月30日受領, 2020年5月20日受理)